

田無病院「教育研究担当」高瀬さんが学会最優秀賞を受賞

当院の教育研究担当として上坂英二さん、阿部浩子さん、高瀬麻以さんの3名がボランティア的に活動してくれています。リハビリ科、栄養科、教育研究担当、院長で毎月「栄養とリハビリテーション」の勉強会が開かれています。そこでの取り組みを高瀬さんが日本静脈経腸栄養学会首都圏支部会学術集会で発表しました。演題は「西東京市田無病院回復期リハビリテーション病棟入院患者における歩行機能改善及び非改善群の特性比較」で、最優秀演題賞を受賞しました。リハ病棟での取り組みが高く評価されたことは非常に喜ばしいことです。今後も「栄養とリハビリテーション」の勉強会での検討とリハ病棟の取り組みの成果が、リハ科、栄養科から発表されていくこととなります。楽しみですね。



受賞した教育研究担当の高瀬さん（左）と指導に当たった上坂さん（右）

医療法人財団緑秀会 広報紙

グリーンレター

～Green Letter～

老いても足で歩くまち 老いても口から食べるまち 西東京 田無病院

Aug
2017
夏号

6月末より、医療福祉連携部事務員として若松陽香が入職しました。昨年は当部署より西東京市在宅療養連携支援センター『にしのわ』に高岡がセンター長として異動。そして、この度の事務員交替と、変化し続ける医療福祉連携部です。

この変化が成長の機会となるよう、これからも皆様のご指導、ご鞭撻をいただきながら、業務を行って参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

また、事務員北沢が在職時は、みなさまに大変お世話になりました。この場をお借りして、感謝申し上げます。
医療福祉連携部 部長 内田美沙子



↑写真上段 柳内優佳（MSW）・内田美沙子（部長 MSW）・中村江里（主任MSW）
下段 川本真由美（MSW）・高岡里佳（にしのわセンター長）・若松陽香（事務員）

医療福祉連携部の
メンバーが代わりました

緑秀会グループ

田無病院

西東京市緑町 3-6-1

TEL: 042-461-2682 FAX: 042-461-5992

介護老人保健施設 エバグリーン田無

西東京市緑町 3-6-1

TEL: 042-461-7200 FAX: 042-461-7065

田無訪問看護ステーション

西東京市緑町 3-6-1

TEL: 042-461-7722 FAX: 042-461-5992

田無在宅介護支援事業所

西東京市緑町 3-6-1

TEL: 042-461-7981 FAX: 042-451-6781

緑町地域包括支援センター（西東京市委託事業）

西東京市緑町 3-6-1

TEL: 042-461-7081 FAX: 042-461-2720

小規模多機能型居宅介護・グループホーム

みどりの樹

西東京市東町 2-2-6

TEL: 042-439-9311（小規模） 042-439-9315（グループホーム）

FAX: 042-439-9312（小規模） 042-439-9316（グループホーム）

高齢者専用賃貸住宅 みどりの樹清瀬

清瀬市下清戸 4-709-17

TEL: 042-494-6161 FAX: 042-494-6168

西東京市在宅療養連携支援センターにしのわ

西東京市中町 1-5-1 西東京市保谷保健福祉総合センター1階

TEL: 042-438-4122 FAX: 042-438-4124

特別養護老人ホーム グリーンロード

西東京市西原町 2-2-11

TEL: 042-467-7736 FAX: 042-467-7070

グリーンロードヘルパーステーション

西東京市西原町 2-2-11

TEL: 042-461-2634 FAX: 042-461-5995

田無病院 基本理念と基本方針

基本理念

「楽しく生き、幸せに死ねる」地域医療と介護を目指します。

老いても足であるくまち

老いても口から食べるまち 西東京

You can walk, you can eat, forever! West-Tokyo City

基本方針

- ① 急性期、慢性期、在宅を繋ぐ医療を提供します。
- ② 地域医療と介護の融合を目指します。
- ③ 患者さまとその家族の立場に立った医療と介護を提供します。
- ④ 職員が健康で楽しく働ける職場を目指します。

第14回みんなに役立つ田無病院市民講座ご報告

→講師
阿部浩子先生



暑さの盛りの7月22日に、田無病院市民講座を催しました。時期にふさわしい内容で、「脱水・熱中症にならないために」と題した講演を大分県病院薬剤師会の阿部浩子先生に、「脱水予防と食事のはなし～夏を乗り切るために～」と題した講演を、当院訪問担当管理栄養士の田中美恵子先生にそれぞれお話しいただきました。

阿部先生のお話は、熱中症に関わるからだのメカニズムについてのお話と、家庭で作れる、脱水対策ドリンクの紹介を

いただきました。田中先生からは、食欲がなくなりがちな夏の盛りでの食事の注意点と工夫についてのお話をいただきました。

参加者皆様自分のことと、熱心に聴講され、ご好評をいただきました。

加えて、当院回復期リハビリテーション病棟にご入院中の患者様が、有志で取り組まれている「QOL（人生の質）を高める活動」の一環として作成しました、『熱中症対策うちわ』をご来場者皆様にお配りいたしました。患者様作成の絵とメッセージのいったうちわもとても好評でした。

次回田無病院市民講座は、9月16日（土）14時30分から、「フレイル予防で健康長寿」と題し、当院副診療部長の中村岳雪先生にお話をいただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

リハビリテーション科と東大農場との 共同事業が、本年も開始されました



昨年度より東大農場と当院作業療法士が中心となって進めてきた農作業を取り入れたリハビリテーションの実践と研究が、本年も始まりました。広大な土地で農作業に励み、作物を育て、患者様に好評を頂いております。また収穫した野菜を患者様と共に調理し、当院の昼食に出すことも出来ました。農作業に行き、「育てる・感じる・採る・(収穫物を)使う」という作業にて、日常生活に必要な身体機能の向上や、農作物を育て収穫するという作業などが落ち着きや安らぎといった心理面や精神機能にも様々な効果が得られると言われております。

昨年の実績でも、バランス能力や日常生活動作能力が向上したほか、麻痺した上下肢の機能向上、歩き方がスムーズになったという効果、関心や意欲が高まり、見当識の向上を認められ、自信の向上とともに、病棟では自主的に訓練をする方が多くみられるといった効果がありました。ひきつづき、「身体機能、ADL能力向上」「認知症の症状改善」「主体的な生活の獲得」について、効果を検討するべく進めております。



の農作業リハビリテーションの様子

都内初！「西東京市フレイル予防事業」への協力開始！



内に暮らす高齢者が、「虚弱（フレイル）」状態となり、介護が必要となることを防ぐための、西東京市の事業『フレイル予防』が開始されました。

この事業内容は、東京大学高齢社会総合研究機構の飯島勝矢教授が作成した、「フレイルチェック」を、市民が行うことで、虚弱状態を未然に防ぐことを自覚し、行動に移してもらうことを目標に実施しています。

この事業には、当院が西東京市からの期待に応える形で協力しており、リハビリの専門職種として、中村副診療部長と、石塚リハビリテーション科長が、事業の担い手となる市民（サポーター）を養成する「トレーナー」として関わっております。開催時には近隣市・区の行政関係者や、マスコミ、他県からも大勢の方々が見学にこられ、注目を浴びています。

事業は、4月20日、21日の2日間に、「サポーター」を養成する研修から開始され、5月16日には、第1回目の「フレイルチェック」を一般市民に実施しました。「フレイルチェック」は、毎月近隣の市民が集まりやすい福祉会館などを利用し、概ね2時間でフレイルに大に関わる「栄養」「運動」「社会参加」の3項目について、各自チェックします。

今後は、9月にもう一度、フレイル事業を支える市民の「サポーター養成講座」が開かれます。市民が事業を支える側にまわる「サポーター」が増えることで、フレイル状態となることを未然に防げる方が多くなることを望みます。ところで、当院のスローガンは「老いても足で歩くまち。老いても口から食べるまち。」です。フレイル予防をすでに謳っているのだからと再認識します。

台湾・高雄医科大学病院からの見学

6月19日に高雄医科大学病院の黄教授が率いる多職種の栄養サポートチームのメンバー10人が、嚥下内視鏡検査の見学に当院を訪れました。当日は3例のVE検査がありましたが、非常に熱心に、そして楽しそうに見学をしていきました。台湾でも高齢化に伴い、摂食嚥下障害の評価が非常に重要になってきているのだと感じました。

